

ポローニャ大学 協定留学（交換留学）月例報告書（2023年10月）

文化政策学部 芸術文化学科3年 尾高美海

みなさまこんにちは。尾高美海です。例年に比べ、日本は比較的過ごしやすい10月だったとお聞きしました。イタリアは、朝夕と昼の寒暖差が激しく秋を身近に感じられた1ヶ月でした。

[授業について]

10月に入り、新しく大学附属の語学学校が始まりました。クラス全体は20人ほどでアジア人は私一人です。授業内容は基本的な文法や日常会話など、ある程度日本で学んでいた範囲を復習していますが、週に2日の開講のため一日に組み込まれるペースが早く、予習と復習プラス α が欠かせません。クラスの雰囲気は非常にアットホームで、かつ意欲的な生徒も多く意見もよく飛び交います。語学学校での私は日本にいたときと変わらず常に明るいです。先生含め、みんなからは「cornetto di pistacchio」（ピスタチオのクロワッサン）が大好きな日本人として捉えられており、例文作成やピスタチオの話題が出たら真っ先に話を振られます。英語とイタリア語など、言葉の壁はもちろんありますが、笑顔とマインドで今は楽しく通っています。

大学の講義についても毎週同じペースで進んでいきます。語彙はやはり専門用語も多く苦労しますが、接続詞など先生の口癖がだんだんわかってきた時は嬉しかったです。木曜日に開講される Italian culture は毎週新しい先生による講義が開かれます。文学や映画の歴史に興味がある方にはおすすめの授業だと思います。

[生活について]

この1ヶ月は欲張り月間でした。普段の生活に加え、1ヶ月のうち4分の3は深夜にリモートで日本のインターンシップや会社説明会に参加していました。コロナ禍の影響もあり、リモート実施が主流化してきている企業も多くイタリアからでも参加できます。しかし、日本との8時間時差をいいことに少し予定を詰め込みすぎてしまったため、11月は逆算しながら余裕を持って過ごしていきたいです。

また10月はバルマへ一人旅をしたり、語学学校の友人とモデナを訪れたりしました。イタリアでは毎月第一日曜日、無料で国立美術館や博物館へ入館できます。バルマにはトスカニーニの生家やヨーロッパ最古の劇場の一つと言われるファルネーゼ劇場、薔薇色に輝く Duomo があり、芸術に溢れた都と言われます。街全体もポローニャと比べ落ち着いた雰囲気で、有意義な時間を過ごすことが出来ました。モデナでは、エンツォ・フェラーリ生家博物館を訪れました。幼少の頃からF1が大好きで、いつかこの目で見たい！と思っていたので、実際に歴代のスポーツカーを目にした際は

高揚感が高まりドキドキが止まりませんでした。今回友人たちと一緒に行くことができ、思い出を作ることもできて嬉しかったです。

一方、イタリアの友人とも交友関係が深まり貴重な体験を日々させていただいています。例えば、ある日友人が『野菜を育てに行くから君も一緒に来ない?』と誘ってくれた為、ポローニャ郊外の畑に行きました。中心地から一歩外へ出ると、辺り一面に壮大な畑が広がっており自然の空気を思いっきり吸うことができます。田舎で生まれ育った私にとって、そこは心落ち着く空間で農家の方々も優しく時間がゆっくり過ぎていくように感じられました。

[11月の目標]

11月は、受け身でなく自主的に面白そうなこと、新しいことを見つけて挑戦していきたいです。振り返ると毎日毎日が充実していた10月ではありますが、新しいことに出会うきっかけを与えてもらっていたことが多かったように思います。その分11月は生活に少しの余裕と落ち着きが得られそうなので、より主体性を持って街へ飛び出していこうと思います。

今月も最後まで読んでいただきありがとうございました。



エンツォ・フェラーリ博物館にて



3分の2は互いに初めましての夕食会